

無機・有機化学工業製品製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	8～9	電源を切らずに空転しているベルトを手でつかみ動かしたところ、ポンプが稼動し、右手をベルトに巻き込まれ負傷した。	43	169	7	30～49
2017	1	8～9	工場環境保全（水処理）現場にて、架台上でコンテナ誘導作業中、フォークリフト運搬中のコンテナと架台の間で、フォークリフト操作者が操作を誤り（ギアを抜かず、サイドブレーキを引きブレーキを離しエンスト、リフトが動きコンテナが動く）、誘導中の傷病者が架台とコンテナの間に指を挟まれ骨折した。	55	222	7	100～299
2017	1	10～11	除草剤製造の為、水を溜めていたタンクへ薬剤（グリホエース）注入作業、攪拌された除草剤のボトルへの充填作業を行っていた（1日約1時間）。作業中はゴム手袋をしていたが両手のひらと甲、及び顔面に湿疹ができるなど炎症がひどくなった。	42	514	4	1～9
2017	1	20～21	工場TM棟のバンド型熱風通気乾燥機の製品受のボックス交換作業中、出口に取り付けられているビニールシートを持ち上げる際に、誤ってバルブボックス内に指が入りロータリーバルブに接触し、左手中指を裂傷し、縫合手術を受けた。	49	342	8	50～99
2017	1	10～11	フライス盤作業で加工開始した時、設置していた加工部品が傾いたため、部品を押さえるため右手を回転切削部に差し入れ、軍手が巻き込まれ、右手小指の第2関節を切断した。	21	152	7	30～49

2017	1	8~9	被災者はリスラリー工程で使用する原料を確認する為、歩行で倉庫へ移動し、倉庫入口から進入する際に、倉庫入口付近で運搬作業をしていたフォークリフト作業員（操作者）は後進して来た為、お互いに気付かずフォークリフトの右後部に接触し、右後輪に左足を轆かれ、左足裏を裂傷し、左中足骨骨折になった。	59	222	7	100 ~ 299
2017	1	15~16	貯塩槽循環ポンプのVベルト（4本がけ）の交換作業を2人で行っていた。3本目のベルトをかけようとした際、右手人差し指の先がプーリーとベルトの間に挟まった。あまりの激痛により力づくで指を引き抜いたところ、表皮と真皮が剥離し出血した。	54	121	7	100 ~ 299
2017	2	14~15	売場レジにてチェックアウト業務を行っている時、お客様が持ってきたショッピングカート下段に入っていた350ml缶のビールケース（レジ右側）をしゃがんで両手で持ち、レジ中央部のスキャナーに持ち上げようとした。この時、以前から鈍痛を感じていた左肩に強い痛みを感じた。痛みを耐え業務を終えたが、痛みが増してきたので店員に報告した。	36	359	13	100 ~ 299
2017	2	14~15	色物製造工程にて、ミキサー内製品の残りを手で掻き出しを行おうとした際、惰性で回転していた攪拌羽根に指が巻き込まれて、右手指を切創し、骨折した。	30	162	7	10 ~ 29
2017	3	10~11	第一工場1階乾燥フロアで、製品の計量作業をフロアのシャッターを閉めて密室の環境であり、製品が空気中をまわっている状態のため防塵マスクを着用していたが、防塵マスクのフィルターを付け忘れ、製品を吸い込んだ。	37	514	12	30 ~ 49
2017	3	0~1	夕食後、宿泊ホテルへ帰る際にホテル入口前のスロープにてふらつきが起き、左にバランスを崩した。左足で地面を蹴って左へバランスを取ったとき、右肩にかけていたバッグが肩から落下しそうになったため、咄嗟にバッグを受け止めようと右足を出したがスロープ状になっていたため、足が思ったとおりに着地できず、空足の格好となり、右膝が異様な角度となり「ゴキッ」という音がしてその	51	417	19	300 ~ 499

			場に倒れた。受傷時は軽度の飲酒はしていたが、歩行に支障の出る程度ではなかった。また、常用薬として痛み止めを服用していたが、ふらつきとの因果関係は不明である。				
2017	3	14~15	廃溶剤をドラムからポンプを用いて、廃油タンクへ移液する作業中、ドラム内液が少なくなった時、ドラムに差し込んだステンレス製ノズルとドラム底面との接触し、スパークが発生した。その際、ステンレス製ノズルを持っていた右手首から肘にかけて火傷した。原因は、使用していた樹脂製ホースの静電気防止機能の低下と考えられる。	49	512	11	50 ~ 99
2017	3	14~15	ライン稼働が終了し、清掃の一環として区画テープ（ラインテープ）の貼り替えを2名で行っていた（床ライン貼替）際、テープの端を持ち貼る位置を確認し、しゃがんだ瞬間に左膝外側に違和感を感じた。その後、テープを貼り終え立ち上がって歩行しようと体重移動した際、痛みを感じた。	45	921	19	300 ~ 499
2017	3	14~15	S2Cプラント2階パレット化設備にあるストランドカッターで、ストランドカッター手前に堆積していた樹脂ストランドを除去する作業に着手し、堆積していた樹脂ストランドを抜いた際に、樹脂ストランドの先端が目に入り、目を負傷した（角膜潰瘍、光彩に傷有り）。作業時は保護メガネを着用していたが、他作業で汗をかき、花粉症の為マスクを着用していたこともあり保護メガネが曇った為、保護メガネを外して作業を継続し、目を負傷した。	32	529	4	100 ~ 299
2017	3	10~11	休憩時間にトイレから帰る際、何も無い所で安全靴の底が床に引っ掛かり躓いて、左手をついて左肩に全体重がかかり、左肩の関節を脱臼した。	33	418	1	10 ~ 29
2017	3	9~10	工場内で車輪付き足場を移動中、高さ調節のために足場に登った時にバランスを崩し、飛び降り（約1m）で右足首を捻った。	45	411	1	50 ~ 99
			廃棄物を投入後、コンテナに設置されている階段を下りる際、残り2				

2017	4	18~ 19	段（約40cmの高さ）より足を踏み外し、背中から転倒した。背中に違和感はあったが、就業できない程ではなかったため、その後もそのまま就業した。背中の痛みがあり、後日、肋骨が3本折れ、内1本が肺に刺さっていることがわかった。	57	413	1	10 ~ 29
2017	4	16~ 17	ジェットミル粉碎室から製品をエレトラックに積んで運搬していた途中で、工務課のエレトラックが停車していた。通れないと判断し別の通路を通ろうと後進した際に右側の後輪が溝にはまり、その反動でエレトラックの向きが変わって配管に接触した。慌てて前進をした時にアクセルリングを強く握ったため勢いよく前進し、溝蓋の段差でバランスを崩した時に足が滑り、右足が車外へ出て支柱とエレトラックの間に足が挟まれた。	36	229	7	100 ~ 299
2017	5	14~ 15	工場内で製品のペレットをスチールスクリーウを使ってフレコン（大型の袋）に入れる作業の途中に、製品のペレットのサンプルを取り出すため、スクリーウコンベア入口からプラスチックのカップで取ろうとした時にカップを落してしまい、それを拾おうと電源スイッチを切らずに手を入れた拍子に回転刃に強く当たり、右手中指と薬指を骨折した。	28	169	7	10 ~ 29
2017	5	11~ 12	建屋内3階で設備の整備作業中に気分が悪くなり、一旦作業場近くで腰掛けて休憩した後、エレベーターを使って1階の詰所に向かおうと立ち上がった際、下半身に力が入らずバランスを崩して転倒し、左橈骨・左第7肋骨を骨折した。	56	921	2	100 ~ 299
2017	5	18~ 19	夜間トラック出入のためプラットホーム踊り場に業務終了後、照明用の電気スイッチを入れ戻す時に、階段脇が濡れていたため足を滑らせ下に落ちてしまい（高さ1m10cm）、左足かかとを骨折してしまった。	66	416	1	10 ~ 29
2017	5	14~ 15	工場内で計測機器の清掃中に、パイプ内のお湯を抜き忘れた状態で計測機器を取り外したため、パイプ内のお湯が両手にかかった。	47	341	11	10 ~ 29

2017	5	15～ 16	納品先構内にて、引取依頼のドラム缶を上下2段積でフォークリフトで搬送中、ドラムがぐらついたので慌ててそのままフォークリフトを降り、前方に回り落下をおさえようとしたが、完全に停止しておらず前輪が左足に乗り上げた。当初は大丈夫だと思い様子を見ていたが、後日に骨折が判明した。	62	222	6	30 ～ 49
2017	5	9～ 10	プラント運転停止後に設備（クレンチ塔）の洗浄を行い、開口部の養生を行った。洗浄後の復旧前確認を行う為、開口部の養生を外した直後に意識を失い、1.85m下の作業架台に転落し、左目上、眉間、首の3ヶ所に切創（合計10針縫合）、腰部等を打撲（内出血有り）した。	34	418	1	300 ～ 499
2017	5	9～ 10	油圧式ハンドパレットトラックを使用し、約150kgの装置を一人で移動中、廊下の曲がり方を曲がる際にハンドパレットトラックが壁に引っ掛かり、装置が横転した。装置とともに本人も転倒し、装置と床の間に右示指と中指を挟み、裂傷及び骨折を負った。	22	362	7	300 ～ 499
2017	5	23～ 24	夜間、構内の通常設備点検を実施していた際、スチームトラップ周りで多量の湯気が上がり、トラップ2次側のドレンポットから凝縮水が溢れ出ている事を確認した。ポット周辺には、溢れる凝縮水が大きな溜まりを作っていたため、近くで状況を確認しようと近づいたところ、誤って右足を高温の凝縮水溜りに入れ、右足首くるぶし下に熱傷を負った。	41	391	11	50 ～ 99
2017	6	16～ 17	当社工場内でフレコンバックにシートを被せる作業をしていたところ、シートを引っ張った勢いで、フレコンバックの1段目より落下し負傷した。	46	611	1	10 ～ 29
2017	6	18～ 19	粉体製品の充填作業中に、製品移送機で詰りが発生したため、設備全体を停止して粉体の払い出しを実施した。当該機器を起動し試運転中、フィード口付近の粉体を除去しようと点検口より手を入れ、移送スクリーと装置壁の間に指を挟まれた。	22	224	7	50 ～ 99
			プラントでコンテナ洗浄中、階段降下時に足を踏み外し、洗い場ス				50

2017	6	13～ 14	テージと階段との隙間に足が入り転倒した。その時に右臀部を打って負傷した。	53	413	2	～ 99
2017	6	14～ 15	工場内にて、ボビンに巻かれている組紐の残糸をカッターで切る際に、カッターの刃を進行させる方向にボビンを押さえる手があり、残糸上をカッターの刃が滑り、ボビンを押さえている左手の親指を切った。	31	364	8	10 ～ 29
2017	7	10～11	作業場で清掃作業中にフォークリフトにて移動しながら降りる際に足元の段差に気づかず段差の上に足を置いてしまい左足を捻り左足首を捻挫した。	49	419	19	1～ 9
2017	7	15～ 16	工場内にて、三本ロールでインチを充填中に、持っていたヘラがロールに巻き込まれたため、無意識にヘラを取ろうと右手を出した際に、右手もロールに巻き込まれた。すぐに手を引いたが、小指の第一関節から先を切断し、薬指の指先の皮膚が裂けた。	30	166	8	500 ～ 999
2017	7	22～ 23	工場内のアルカリ溶融工程における攪拌槽にて、トラブルが発生し、アルカリ溶融液が攪拌槽の蒸気を抜くための配管内に流入した。配管内にて冷えて固まった溶融液を除去する作業を行っていた際、配管内の固化物を別の容器で受けていたときに、固化しきっていない液部分が固化したものと一緒に容器内に落下してしまい、液が飛散して作業者の顔と首に薬傷を負った。	28	519	12	50 ～ 99
2017	7	8～9	本社製造棟内において、食堂のシンク前を清掃中、水を含ませたモップの絞りが弱い状態で床を磨いたため、濡れた床面で足を滑らせ転倒し、負傷した。	22	417	2	100 ～ 299
2017	7	8～9	当社工場の苛性ソーダを酢酸で中和する工程で、中和終点を確認するため、点検口を目視確認したところ、液が突沸し、左首から背中上部にかけて薬傷を負った。	32	511	12	10 ～ 29
		10～	工場内で側溝調査を行っていた。工場壁際の側溝径路を目で追いつつ、所定場所内に置かれた木製パレットの前を横歩きで移動してい				50

2017	9	11	たところ、パレットの角で左足先端部を引っかけた。バランスを崩しそうになり、慌てて踏ん張ったところ、左足外側部に体重がかかり負傷した。（転倒はなし）	51	417	19	～ 99
2017	9	19～ 20	工場内にて、ペレット製造ラインのペレターサー（ひも状の製品を切断してペレットにする機械）でトラブル後、復旧する際右手を巻き込まれ負傷した。	41	169	7	1～ 9
2017	9	8～9	事業所研究棟において出勤直後に同棟更衣室へ移動中に、更衣室入口に有る階段で足を滑らせ転倒し、その際に左肘を強打した。当日は雨天で足元が滑りやすくなっていた、診察の結果、左肘頭骨折の災害が発生した。	25	413	2	50 ～ 99
2017	9	10～ 11	第二工場PNTS溶解作業所で設備機器の塗装を行うため保管している塗料を取りに行った時、缶の中の塗料が乾いていないか人指し指で押して確認しようとして右手のひらが缶の切り口に当たりびくっとして右手を引っ込めた時に、切り口の鋭利な出っ張りで右手のひらを切った。缶切りで切り取った跡の鋭利の出っ張りがある状態の缶を使用していたことと、素手で塗料缶に手を入れたことで、このような災害が発生した。	33	379	8	50 ～ 99
2017	10	13～ 14	開発研究設備（合成紙の表面処理を行う回転体）での作業中、紙管（ロール）に合成紙の巻きつけ作業を行う際、紙管と紙の間に右腕を巻き込まれた。事故原因は、作業手順書と作業実態の乖離。当方設備は、回転速度が低速のため、トルク制御を行っていない。そのため作業手順書では、テープ固定での巻き付けを限定しているが、その教育が適切にされておらず、手による巻き付けを行ってしまったことによるもの。	54	166	7	100 ～ 299
2017	10	17～ 18	弊社取り扱い薬品の製造実験中、切り替え整備中に対象薬品を含んだ汚泥をU字溝より掻き出す作業を行った。その際に、対象薬品が蒸気となって漂い、作業者が負傷した。	50	519	12	100 ～ 299
							100

2017	10	0~1	6階に設置しているドライボックスと5階混酸槽をつなぐ配管を6階にて低い姿勢でボルトを締めた際に腰を痛めた。	38	921	19	~ 299
2017	10	11~ 12	お手洗いへ行き、工場に戻る途中、スロープで誤って転倒し、右ヒザを強打した。	66	417	2	1~ 9
2017	11	8~9	包材置き場で、充填用段ボールを準備中に、床に立てて置いてあった段ボールに躓き前方へ転倒した。	67	611	2	100 ~ 299
2017	11	10~ 11	工場内の金属製の配管に物が詰まり、縦に通っている配管の継手部分を分解してリフトで上部の配管を吊るして、下部のL字部分に左腕を入れて取り除く作業をしていたところ、吊るしていたロープがずれて上部の配管が落下した。左腕の上に落ちて挟まれ打撲した。	72	222	4	1~ 9
2017	11	16~ 17	水酸化リチウムの袋詰め作業において、原料ホッパーから粉体を袋に充填する際、袋から粉がこぼれる状況が発生し、片足付近に粉が付着した。当該作業においては、水酸化リチウムの特性上、粉塵の皮膚付着による熱傷の可能性が既知であった為、ライン内はパーテーションで囲い、局所排気装置を設置、専用の防護装備対策（フルフェイス電動ファンマスク、防塵服、PE長手袋、安全短靴）は実施済みであったが、安全短靴（一部足首が露出）と防塵服の隙間より粉塵が内部に侵入し、熱傷した。	62	514	12	30 ~ 49
2017	11	15~ 16	事務所棟において、被災者が比重測定作業中、恒温水槽から樹脂容器（500?）を取り出そうとした時、誤って手が滑り容器が落下し、その容器が恒温水槽の枠に当たり、液が飛散し、こぼれた（300?程度）、その際、容器内のアボイド81（水酸化ナトリウム30%相当）の液を顔、首、頭頂部に被液し薬傷を負った。	19	519	12	50 ~ 99
2017	12	10~11	工場内の粉碎室内において、脚立に乗って頭上の集じんダクトの上のほこりをエアホースで払い落していた時に、足を踏み外して転落してしまった。	62	371	1	100 ~ 299

2017	12	17~18	プラント停止洗浄作業において通路を通行中、上蓋を開放したマンホールに右足を落とし、高温（約70℃、PH約11）の排水に接触して右足首より下を熱傷した。当該マンホールは通常上蓋が設置されているが、洗浄水をホースで抜き出しており、排水量確認のため上蓋が当日より解放されていた。	21	418	11	~	100 299
2017	12	9~10	コーキング工場13号ニーダー（混練機）で、内部羽根を低速回転させながら洗浄（拭き取り）作業を行っていたとき、足場が滑り、咄嗟に左手で混練機壁面をつかんで体を支えようとしたところ、回転してきた羽根に左手を巻き込まれた。滑り易い床（足場）の清掃が不十分で、拭き取り作業時には羽根を一旦停止させるルールが徹底できていなかった。他の作業者が羽根を逆回転させて救出したが、左手親指付け根に大きな裂傷を負った。	46	162	7	~	30 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html